

## 週刊 女川湾海況速報 (No.61)

発行：東北大学女川フィールドセンター

東北大学マリンサイエンス復興支援室

9 月 17 日から 20 日の小乗南防波堤定点と St.1 の海洋観測情報

## 観測点



## 小乗南防波堤定点の結果

①水温・塩分：先週と比較して水温と塩分はともに上昇し、それぞれ 21.7～22.5℃、32.7～33.3 の範囲にあった。経時的に水温は期間を通じて全層で下降傾向にあったが、塩分は上昇傾向。鉛直的には表層(0m)と底層(6m)の水温差が小さくなった。特に 27 日には表層の水温が底層より 0.2℃低く、水温逆転が生じていた。全体的な水温の下降と 27 日の水温逆転は気温の低下の影響と推定。

水深 [m]	9月25日 (水)	9月26日 (木)	9月27日 (金)
0	22.5 (32.7)	22.1 (32.7)	21.7 (33.0)
6	22.0 (33.1)	21.9 (33.2)	21.9 (33.3)

水温の単位は℃。\*25日は5mを使用。

②濁度：先週と比較して全層で上昇。経時的には 26 日に表層で一旦上昇したが、底層では期間を通じて下降傾向。鉛直的には底層で比較的高い値を示した。(単位は FTU)

水深 [m]	9月25日 (水)	9月26日 (木)	9月27日 (金)
0	1.4	1.7	1.0
6	3.4	3.4	2.9

③溶存酸素：先週と比較して全層で下降したが、6～7mg/l 台を維持。経時的には 27 日に表層で下降したが、底層では上昇し、鉛直的にはほぼ一様 (6.4～6.5mg/l) になった。

水深 [m]	9月25日 (水)	9月26日 (木)	9月27日 (金)
0	7.0	7.0	6.5
6	6.0	6.0	6.4

単位は mg/l。水産用水基準 (水産動植物が正常に生息および繁殖ができる値)：4.3mg/l 以上。

## St.1 の結果

水温、塩分はそれぞれ 21.5～22.4℃、32.8～33.2 の範囲にあった。濁度は 0.4～4.0FTU の範囲にあり、底層(20m)で最大。溶存酸素は 4.8～7.7mg/l の範囲にあり、底層で最小。先週と比較して底層では酸素飽和度がさらに下降し 67%を示した。

9月24日

水深 [m]	水温 [℃]	塩分	濁度 [FTU]	溶存酸素 [mg/l]
0	22.4	32.8	1.0	7.7
5	22.2	32.9	0.5	7.7
10	22.1	33.0	0.4	7.6
15	21.9	33.1	1.6	6.4
20	21.5	33.2	4.0	4.8

本データの利用については、  
東北大学マリンサイエンス復興支援室

Tel.: 022-717-8827

Fax: 022-717-8828

E-mail:

[agr-marin@bureau.tohoku.ac.jp](mailto:agr-marin@bureau.tohoku.ac.jp)

までお問い合わせください。